

Nostalgia 小樽運河の輝き



加藤貢 《小樽運河》 1995年 鉛筆画



加藤貢 《小屋のあるはしけ》 1997年 鉛筆画



加藤貢 《運河》 2001年 鉛筆画



横山文代 《歴史の譜（ひとり）で》 2021年 油彩画

collection ストーリー② あの頃の運河

同時開催



運河を心の故郷と呼び、景観の保存を願った、鈴木傳、金丸直衛、小竹義夫、角江重一ら、当館収蔵品のなかから、運河を描いた作品を展覧いたします。

鈴木傳 《小樽の運河》 1972年 油彩画

現在の小樽運河は、観光拠点となり街のシンボリック存在です。かつては、沖合の船から荷を舁に積み替えて、倉庫に収めるための水路で、大勢の労働者による荷役が行われた、生きた労働の現場でした。しかし、時代とともに舁を使った荷役が廃れ、運河は無用の長物となり荒廃していきました。

画家・加藤貢は、偶然、ラジオで運河保存運動の藤森茂男のメッセージを聞き、埋め立てが目前に迫っていること、保存に命をかけている藤森の言葉に胸を打たれました。運河を訪れたとき、描かなければならないという強い衝動に駆られ、鉛筆だけで克明に大画面に絵を描き続けました。絵画の基礎は全くの独学で、昼間仕事を終えてから夜間制作に励み、完成まで1作に1年を要しました。

いっぽう、小樽生まれの画家・横山文代は、高校卒業後すぐに人気漫画家として東京で活躍し、帰郷したとき目にしたのは、すでに埋め立て後の運河でした。洋画家として北海道風景の魅力を伝えたいと再出発してからも、すぐに着手できず、やがて唯一当時のまの姿を遺す北運河を中心に、大作に取り組みました。加藤の作品を一目見たとき、小樽人として深い感銘を受け、本展開催に至ったものです。住んでいることでその魅力を再認識した横山の描く運河は、光輝く希望に満ちた姿で私たちを励ましてくれます。

本展は、小樽運河を題材に白日会展で出会った加藤貢、横山文代の二人の画家の「鉛筆画大作と油彩画」、「埋め立て前と現在」という対照的な個性を展覧いたします。

MITSUGU KATO

1952年 北海道・赤平市に生まれる。
2001・2002年 道展入選。
2004年 日輝展創立30周年記念展奨励賞。
2005・2008年 全道展出品。
2016年 北海道美術作家協会展新人賞、会友。
2018年 示現会展出品、2021年ホルベイン賞。
2022年 白日会展出品。



FUMIYO YOKOYAMA

小樽に生まれる。
2007年 北海道新聞後志版でイラスト連載。
2011年 道展初入選、以後3回出品。
2013年 白日会展入選、現在に至る。
2015年 北海道新聞全道版にて連載。
2017年 白日会展会友推挙。
2020年 白日会展準会友推挙。



《関連事業》

加藤貢×横山文代トークイベント

第1回 2023年2月25日(土) 14:00~14:30

第2回 2023年3月4日(土) 14:00~14:30

《作家来館予定》

加藤貢 2月23日、2月26日、3月5日

横山文代 2月25日、3月4日

*トークイベントは、事前のご予約が必要です。

お電話(0134-34-0035)へお申込みください。聴講無料

*都合により出品作品が変更になる場合があります。



市立小樽美術館

1階市民ギャラリー

〒047-0031 小樽市色内1丁目9番5号 電話 0134-34-0035

協賛 市立小樽美術館協力会

後援 北海道新聞小樽支社・HBC北海道放送・UHB北海道文化放送